



パステル

Interview

俳優・気象予報士

石原 良純

さん

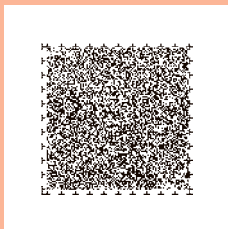
特集

男性の「生きづらさ」を見つめてみる
男性学からひもとく
「社会」のカタチ

Pastel Report vol.03

京急開発株式会社

こだわりを捨て「撤退」しながらも
自分なりの価値観を育んできた



このマークは、目の不自由な方などのための「音声コード」です。コードの位置を示す切り込みを入れてあります。専用の読み上げ装置で読み取ると、記載内容を聞くことができます。

No.135

2026
春号

生きる上でのモットーを
教えてください。

僕のモットーは楽しむこと
とです。大変なこともある
けど、どうせなら楽しいこ
とや面白いことを探しながら
生きていきたい。日常の
中や、つまらないと感じる
ことの中でも、新しい発見
や試み、続ける楽しみなど、
何かを見つけて自分にイン
プットすることが大切だと
日々思っています。拒絶し
ない心を持って、人や物事
に対してまずは興味を持っ
てみる。年齢とともに筋肉
も頭も硬くなっていくから、
ストレッチのように柔軟性
を意識していかないとね。

親父が3年前に亡くなり
ました。とにかくエネルギー
ギッシュな人で、亡くなる
前に病室で手を握ったら、
振り払われたんです。「すこ
いね、この人」って、思いま
した。親父は89年間、好き

Interview

俳優・気象予報士

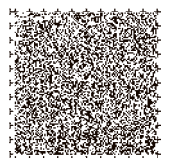
石原 良純 さん

Ishihara Yoshizumi

Profile

昭和37年、神奈川県生まれ。父は作家で、元東京都知事の石原
慎太郎氏。叔父は俳優の石原裕次郎氏。大学在学中に主演
映画「凶弾」でデビュー。俳優として『西武警察』シリーズや
『太陽にほえろ!』などの作品に出演。その後、気象予報
士の資格を取得し、お天気キャスターのほか、バラエ
ティや報道番組など多方面で活躍を続ける。

こだわりを捨て
「撤退」しながらも
自分なりの価値観を
育んできた





なことや思ったことを実現しようと努力した、悔いのない人生だったと思います。よく本を読んで、人に会って話をするのが好きで、インプットを怠りませんでした。その活力の根源は、やっぱり興味や好奇心だったと思います。そして、それをアウトプットする。最後まで、親父は車椅子で机に向かっていましたからね。

ご夫婦で子育てをされる中で、変わってきたことはありますか。

妻に「教育って何だろう？」と聞いたらね、「こどもを愛すること。愛するということのはこどもと時間を共有すること」と言われました。僕が育った石原家では、そういう意味では「教育」はなかったな。良い悪いではなく、父が中心の家庭でしたから。妻はこどものことをよく見ていて、僕は妻の言葉を間違いないと思っていました。だから、妻に学校行事に行つてと言われれば行くし、こどもの面倒をみてと言われたらみる。結果、僕も家族と一緒にいる時間を楽しんでいきます。こどもや妻を見てるとやつぱり面白い。もっと知りたいという好奇心があるから、会話もよくします。

こんなふうに柔軟でいら

れるのは、まず僕自身が「僕の思っていることは全部間違いだ」という視点を持って物事を見ているから。極端に聞こえるかもしれないけど、独特な父と母のもとで育った自覚があつて、ましてや芸能界に身を置く自分の価値観は疑うようにしてきました。結婚して、妻と暮らす中で変わった部分も多いです。以前は、夜は真つ暗な部屋で寝るとか、食事は酒を飲みながらゆっくり取るとか、こだわりのありました。けれど家族で暮らしていく中でそうもいかない時があるわけです。ある時から「こだわらないようにしよう」と思うようになりまして。その結果二十数年、こだわりからの「撤退」を続けていますが、これが僕にとつては結構、楽なんですよ。

たくさんの人との出会いを通して、色々なことを教わったから柔軟でいられる

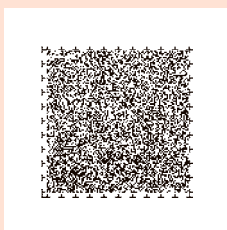


んだと思います。自分のこだわりから「撤退」し続けていたら、いつか崖から落ちるような、悪いことが起きてしまうんじゃないかって思っていたけど、全然悪いことにはならない。むしろ昔より今の僕は断然良い人ですし、楽しく過ごしています。

家族を持って、社会の変化も肌で感じます。妻は医者で、結婚後も仕事を続けていました。もちろん忙しかったのですが、妻の実家に助けてもらいながら子育てをしてきました。今、テレビの現場でもカメラマンなどの力仕事でも、女の人のほうが多いくらいです。根性もあるし、勉強熱心ですね。

次の世代にメッセージを願います。

無駄だと思ふことこそ大事。広く興味を持ち、無駄を恐れずに挑戦したほうがいい。僕も今でも挑戦していますし、新しいことでもに教わることもします。最初から拒絶せず、何事も面白がるといいんですよ。テレビは楽しむためのツールだから、ある意味で無駄なものかもしれませんが。でも、60歳を過ぎて人生の第四クォーターにいる僕が今、何ができるのかと考えた時、「テレビマン」の僕が知っているテレビの楽しさや力を、若い人たちに伝えていきたい。それが自分の役割かなと思っています。

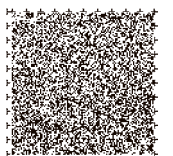


※このインタビューは、令和8年1月7日に行いました。



男性学からひもとく「社会」のカタチ



©大田区



こんなことを思ったことはありませんか？

- 妻より給料が低い夫は、どこか情けなく感じてしまう 
- 平日の昼間に男性が公園にいと、仕事をしていない、怪しい人に見える
- デートや食事のお金は、男性が負担すべきだ
- こどもの発熱や学校行事などで、仕事を休みたくても、男性は言い出しづらい雰囲気がある 

見えにくい

「男性の生きづらさ」

「男性学」という言葉を耳にしたことはありませんか。これは、社会の中に根付く「男らしさ」という縛りが、男性の生き方にどのような影響を与えているかを考える学問です。男性は、社会から「男らしい役割」を果たすよう期待されることも多く、その影響を受けながら日々の生活を送っている方

も少なくありません。今回は、男性特有の悩みや生きづらさについて、ジェンダーの視点から一緒に考えてみましょう。



「稼ぎ手」というプレッシャー

男女の労働時間を比較すると、依然として男性の方が長い傾向にあります。

仕事と私生活の両立に悩む人は少なくありません。こうした状況の背景には、男女の賃金格差という問題が潜んでいます。つまり、女性の賃金が低く抑えられがちな現状では、家計を維持するために「男性が頑張つて稼がなければならぬ」という責任とプレッシャーが生まれやすくなっています。

このような意識は、子育ての場面でも影響して

います。例えば、こどもが急に熱を出したとき、男性が「自分は黒柱だから、仕事は休めない」と考へたり、職場内で「男性だから、家庭より仕事を優先するだろう」という雰囲気があったりするなど、男性が休みにくい状況は珍しくありません。こうした積み重ねにより、男性がプレッシャーをひとりで抱え込んでしまうことがあります。



なぜ男性はひとりで抱え込みやすいのか

日本の自殺者数は、長年、男性が女性の約2倍という高い水準で推移しています。これは、日本特有の話ではなく、欧米やアジアを問わず世界的に見られる現象でもあります。

その背景には、「男はこうあるべき」という無意識の縛りが影響していると指摘されています。こどもの頃から、「男の子なんだから泣かない」「弱音を吐いてはいけない」といった空気に触れて育つことで、無意識のうちに、人に頼ることを恥ずかしいと感じてしまうケースは少なくありません。例えば、近年は家族のケアのために仕事を辞める「介護離職」の割合も男性の間で高まっています。悩みを誰にも相談できず、ひとりで抱え込んでしまう。こうした孤独や孤立が、男性の生きづらさを深めているのです。

また、生活の軸が仕事に偏りがちな男性にとって、定年退職やリストラなどによって職を離れたとき、「自分はもう社会に必要とされていない」という強い喪失感を抱いてしま

うこともあります。地域や家庭の中に、仕事以外の自分の居場所を見つけないことが難しい現状も、生きづらさを深める一因となっています。

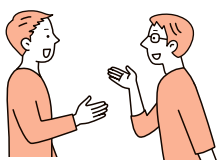
男性も女性も、もっと生きやすくなるために

「男だから」というプレッシャーを少し軽くしてみることは、決して甘えではありません。まずは、パート

ナーや家族と本音や悩みを話してみたり、地域の人とコミュニケーションを取ってみたいことから始めてみませんか。性別による縛りから解放されることで、すべての人がもっといきいきと生きられる社会が広がっていくのではないのでしょうか。



こんなことから
やってみませんか？



あいさつを
してみる

地域の
スポーツサークルに
入ってみる

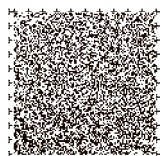


地域のイベントに
参加してみる！



大田区では男性のための電話相談窓口があります！

家庭や職場での人間関係のことなど、ひとりで悩まず、まずはお話ししてみませんか？男性相談員が対応します。お気軽にご相談ください。詳しくは本誌最終ページの「男性相談ダイヤル」をご覧ください。



京急開発

株式会社



性別にかかわらず誰もが働きやすい職場づくりに向けて、女性管理職比率の向上や男性の育児休業の取得推進に取り組んでいる京急開発株式会社。そこで働く3人の女性に話を伺いました。

賃貸事業部長

おかもと よしこ
岡本佳子さん

レジャー事業部
天然温泉平和島支配人

こばやし み き こ
小林三貴子さん

総務部
人事担当 課長

おぐら なな え
小椋七恵さん

女性の管理職として、変化を感じる部分はありますか？

岡本さん：小椋さんが令和5年、

人事担当の課長に就任したことは、大きな変化でした。女性初ということもあり、相談しやすい雰囲気が生まれたと感じています。

小椋さん：管理職の立場に女性がいることは、妊娠や出産など相談しやすい面もあるかもしれませんが、私は、男性も女性も、誰もが働きやすい環境を整えていきたいと考えており、そのひとつとして、上司と部下による評価面談の制度化、記録化を進めました。

小林さん：日々の業務の中では、言いづらいこともあると思うんです。だからこそ、落ち着いて話し合う時間を作ること、お互いの信頼を深め、良い関係を築けているのではないかと思います。



育児休業や有給休暇の取得を促進するために、どのような工夫をされていますか？

岡本さん：コロナ禍を経てテレ

ワークや、半日および時間単位の有給休暇を取る人も増えました。私自身、親の通院の付き添いの時などに利用しています。

小林さん：まずは、私自身が積極的に休暇を取ることで、部下が「自分たちも休んでいいんだ」と思える雰囲気をつくるよう意識しています。管理職としては、休みの希望があった時は絶対に断らないと決めています。

小椋さん：男性が育児休業を取ることも増えてきました。どうしても「周りに申し訳ない」と後ろめたさを感じる人もいると思います。そこで、サポートに回る人の賞与にも対応できる「特別加算」という仕組みを導入したんです。岡本さん：加算によって周囲の頑張りが見え化されるので、お互いにフォローしあう気持ち

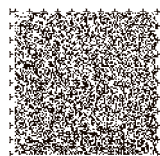


さらに生まれやすくなっていると思っています。

今後組織として大切にしたい思いを教えてください。

小椋さん：介護に関わる社員や女性特有の健康課題など、一人ひとりに寄り添ったサポートをさらに充実させていきたいです。小林さん：私の部署では、赤ちゃんを会社に見せに来てくれるくらい温かい雰囲気があります。会社は家族より長く過ごす場所だからこそ、仲良く、心通う関係を築いていきたいですね。

岡本さん：弊社はジョブローテーション制なので、様々な現場を経験している社員が多いからか、自然と会話を大切にする文化があり、それが思いやりの土壌になっているのかもしれない。これからコミュニケーションを大事に、一人ひとりの力を最大限に引き出せる環境を作っていきたいです。



『逆差別』



逆差別とは、これまで不利な立場に置かれてきた人を支援するための制度や配慮について、別の立場の人が不公平だと感じることで使われる言葉です。例えば、大学入試における理系の女性枠は、女性が少なかった分野で学ぶ機会を広げる目的で設けられています。一方で、性別

によって応募条件が異なることから、男性にとっては「逆差別」と考えられることもあります。しかし、こうした制度は特定の人を優遇するためのものではなく、これまでの偏りをなくし、機会の公平性を高めることを目的としています。背景や意図を踏まえて考えることが大切です。



Pastel News

第9期大田区男女共同参画推進プランができました!



少子高齢化や人口減少、働き方の多様化、ケア労働の増加など、社会構造が大きく変化する中で、誰もがその個性と能力を十分に発揮できる持続可能な社会の実現が求められています。男女共同参画のさらなる推進に向けて、大田区では令和8(2026)年度から令和12(2030)年度を期間とする「第9期大田区男女共同参画推進プラン」を策定しました。

基本理念



誰もがお互いを尊重し
自分らしく輝けるまち 大田区



～地域みんなで男女共同参画のまちづくり～

基本目標

I 誰もが尊重される社会をめざします

個別目標I-1

人権尊重とジェンダー平等意識の向上

個別目標I-2

多様な個性を認める意識の醸成



II 安全・安心に過ごせるまちを築きます

個別目標II-1

ジェンダーに基づく暴力(GBV)の根絶

個別目標II-2

ジェンダーの視点に立った生活上の困難に対する支援

個別目標II-3

防災・復興における男女共同参画の推進



III 誰もが活躍できる環境づくりを応援します

個別目標III-1

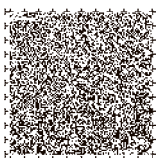
仕事と家庭の両立に向けた取組の強化

個別目標III-2

ワーク・ライフ・バランスの推進

個別目標III-3

生涯を通じた男女の健康支援



Let's go!

エセナおおた

エセナおおたは、男女共同参画社会の実現を目指す活動拠点施設です。講座・講演会の開催、情報収集・発信、交流の場の提供などを行っています。

大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」
〒143-0016 大田区大森北4-6-7
大森北四丁目複合施設(スマイル大森) 5階・6階
TEL:03-3766-4586 FAX:03-5764-0604



二次元コードからアクセス



JR大森駅東口より徒歩6分。
一般用の駐車場はありません。

Event Report

講座を開催しました(令和7年10月)

エセナフォーラム2025講演会

講師:吉田恵里香さん インタビュアー:長尾詩子さん

連続テレビ小説「虎に翼」の脚本家である吉田さんによる講演会を開催しました。ご自身が脚本を書くうえで大切にしていること、作品を通して込めた思いなどのお話から、男女共同参画の視点を学びました。



カフェでのんびりしませんか

エセナおおたの「カフェおひさま」では、平日の午前11時30分から午後4時まで、カフェでコーヒーや軽食を提供しています。図書・展示コーナーで本や展示を見ながら、のんびりとした時間を楽しみませんか。



日替わりランチもあります



相談窓口のご案内

相談無料、秘密厳守

相談内容	TEL	相談日時	
女性のためのたんぽぽ相談	03-3766-6581	月・金……………10:00～13:00 火・木……………13:00～16:00 水……………18:00～21:00 土……………13:00～19:00 (年末年始を除く) ※相談受付は終了時間の30分前まで	詳細内容は二次元コードからアクセス 
DV相談ダイヤル	03-6423-0502	月～金……………9:00～17:00 (祝日・年末年始を除く)	詳細内容は二次元コードからアクセス 
男性相談ダイヤル	03-6404-6020	第2・4金曜日 17:00～20:00 (祝日・年末年始を除く) ※相談受付は終了時間の30分前まで	

※臨時休業や時間変更など最新情報は大田区ホームページでご確認ください。

編集・発行／
大田区 総務部 人権・男女平等推進課
〒144-8621 大田区蒲田5-13-14
TEL:03-5744-1610 FAX:03-5744-1556
令和8年3月発行



過去のバックナンバーは大田区ホームページに掲載しています。ご意見・ご感想もこちらのホームページからご入力いただけます。

